

田辺市子ども・子育て会議
田辺市公立幼稚園のあり方検討部会
<提言書>

田辺市公立幼稚園のあり方検討部会

【目次】

I 公立幼稚園の状況について

1、田辺市就学時前、教育保育の現状について

(1) 田辺市の就学時前人口推移、幼稚園各エリアの人口推移 [P.1 ~P.2]

(2) 田辺市に設置されている公立幼稚園、私立幼稚園、保育所、認定こども園の概要
[P.3 ~P.4]

2、田辺市公立幼稚園の現状

(1) 公立幼稚園の歩み・預かり保育 [P.5 ~P.6]

(2) 意義・役割について [P.7 ~P.8]

(3) 園児数の推移・公立幼稚園の入園前の状況調査 [P.9~P.10]

II 公立幼稚園の意義と役割について

1、田辺市公立幼稚園の意義と役割

(1) 幼小連携・接続 [P.11]

(2) 地域に根差した幼稚園（学社融合） [P.12]

(3) 公立幼稚園の現状における課題について [P.13]

III 今後の公立幼稚園の意義とあり方

1、田辺市公立幼稚園としての特色ある園運営のあり方 [P.14]

2、今後の公立幼稚園の果たす役割 [P.15]

3、公立幼稚園における望ましい人数 [P.16]

4、今後の公立幼稚園の運営 [P.17~P.18]

5、その他 [P. 19]

IV おわりに [P. 20]

I 公立幼稚園の状況について

1、教育保育の現状について

(1) 田辺市の0～4歳児の人口推移

田辺市 0～4歳児の人口推移

(田辺市HP 田辺市住民基本台帳・市民課問い合わせ)

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
全人口 (田辺市)	73,734	72,581	71,550	70,414	69,156
(旧田辺市)	62,555	61,738	61,031	60,223	59,317

0～4歳児 (田辺市) ※	2,449	2,370	2,232	2,190	2,036
(旧田辺市)	2,217	2,169	2,046	2,030	1,887

※田辺市(旧龍神村、旧中辺路町、旧大塔村、旧本宮町含)の年齢別人口

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
0～4歳児 (田辺市)	2,449	2,370	2,232	2,190	2,036
0歳児	446	405	408	416	352
1歳児	496	457	422	408	424
2歳児	478	504	450	424	402
3歳児	539	468	496	447	416
4歳児	490	536	456	495	442

田辺市の過去5年間(H30～R4)の人口推移を見ると、人口は減少傾向にあり、令和4年には、69,156人と70,000人を下回った。旧田辺市でも、59,317人と60,000人を下回っている。また、0～4歳児までの人口を、年齢ごとに分け毎年調査を行った結果では、減少しつつある年齢が多く、0～4歳児の人口増加は期待できない状況である。

公立幼稚園所在地エリア別人口【田辺市住民基本台帳より】

0~4歳児人口

		H30年度	R元年度	R 2 年度	R 3 年度	R4年度
新庄幼稚園区	新庄町 神島台 たきない町	251	229	221	219	209
中芳養幼稚園区	中芳養	74	77	86	90	84
上秋津幼稚園区	上秋津	112	128	123	128	123
三栖幼稚園区	上三栖 中三栖 下三栖 上野 長野 伏菟野 城山台	277	292	283	277	279

令和4年度 公立幼稚園所在地 年齢別人口

	新庄町	神島台	たきない町	合計
0歳児	30	2	3	35
1歳児	34	7	8	49
2歳児	30	2	9	41
3歳児	32	2	7	41
4歳児	33	4	6	43
合計	159	17	33	209

	中芳養	上秋津
0歳児	11	22
1歳児	17	25
2歳児	16	20
3歳児	18	24
4歳児	22	32
合計	84	123

公立幼稚園（新庄幼稚園、中芳養幼稚園、上秋津幼稚園、三栖幼稚園）の所在地の0歳～4歳児人口は、一定数ある。

田辺市立各幼稚園の入園対象年齢の人口は、定員（4歳児20名、5歳児20名）を上回っている。

	上三栖	中三栖	下三栖	上野	長野	伏菟野	城山台	合計
0歳児	0	11	21	0	1	0	7	40
1歳児	4	17	23	0	3	0	8	55
2歳児	0	11	27	0	2	0	12	52
3歳児	1	11	37	0	1	0	15	65
4歳児	5	19	34	0	2	0	7	67
合計	10	69	142	0	9	0	49	279

(2) 田辺市に設置されている公立幼稚園、私立幼稚園、保育園、認定こども園の概要
田辺市 幼稚園・保育(園)所一覧 【田辺市 HP , 各私立幼稚園 HP より】

【公立幼稚園】

	園・所名	設置及び運営	保育実施年齢	平日の保育時間	定員
1	新庄幼稚園	田辺市	4・5歳児（2年保育）	7:30~18:30	40
2	三栖幼稚園	田辺市	4・5歳児（2年保育）	7:30~18:30	40
3	上秋津幼稚園	田辺市	4・5歳児（2年保育）	7:30~18:30	40
4	中芳養幼稚園	田辺市	4・5歳児（2年保育）	7:30~18:30	40

【私立幼稚園】

	園・所名	設置及び運営	保育実施年齢	平日の保育時間	定員
1	昭和幼稚園	学校法人	3歳児～	7:30~18:30	290
2	シオン幼稚園	学校法人	3歳児～	7:30~18:30	75

【公立保育所】

	園・所名	設置及び運営	保育実施年齢	平日の保育時間	定員
1	みどり保育所	田辺市	0歳児～	7:00~19:00	70
2	日向保育所	田辺市	1歳児～	7:30~18:00	70
3	稲成保育所	田辺市	0歳児～	7:30~18:00	100
4	はやざと保育所	田辺市	0歳児～	7:30~19:00	60
5	もとまち保育所	田辺市	0歳児～	7:30~19:00	130
6	秋津川保育所	田辺市	2歳児～	8:00~17:00	30
7	くりすがわ保育園	田辺市	1歳児～	7:30~18:00	40
8	ちかの保育園	田辺市	1歳児～	7:30~17:30	30
9	ひまわり保育園	田辺市(運営はNPO)	2歳児～	8:00~16:00	30
10	あゆかわ保育園	田辺市	0歳児～	7:30~19:00	80
11	湯ノ又保育園	田辺市	2歳児～	8:00~17:00	20
12	東保育園	田辺市	2歳児～	8:00~17:00	40
13	柳瀬保育園	田辺市	2歳児～	8:00~17:00	40

【社会福祉法人立保育所】

	園・所名	設置及び運営	保育実施年齢	平日の保育時間	定員
1	いずみ保育園		0歳児～	7:30~19:00	90
2	芳養保育所		0歳児～	7:30~19:00	40
3	会津保育所		0歳児～	7:00~19:00	120
4	あゆみ保育所		0歳児～	7:00~19:00	100
5	わんぱく保育所		0歳児～	7:00~19:00	80
6	こどものへや保育園		0歳児～	7:00~19:00	90
7	まろみ保育所		0歳児～	7:00~19:00	130

【認定こども園】

	園・所名	設置及び運営	保育実施年齢	平日の保育時間	定員
1	うえのやま学園	学校法人	0歳児～	7:00~19:00	90
2	立正幼稚園	学校法人	0歳児～	7:00~19:00	140
3	NUKU森の丘	社会福祉法人	0歳児～	7:30~19:00	60

令和 5 年現在、田辺市に設置されている小学校就学までの園（所）は、合計 29 園（所）ある。

公立幼稚園の保育期間は 4・5 歳児の 2 年保育である。子供は 4 歳の誕生日を迎えて、次の 4 月を待って園に入園できる。私立幼稚園は、3 歳の誕生日を迎えれば、その日から入園が可能となっている。他の公立保育所や、社会福祉法人保育所、認定こども園等は 0 歳から保育を始めているところもある。

また私立幼稚園等では、田辺市内、近隣の町まで、通園バスを運行している園もある。

現在、田辺市に設置されている小学校就学前までの園（所）は、就学前の教育・保育を希望されるご家庭の乳幼児の人数を十分に確保できている状況にある。

2、田辺市公立幼稚園の現状

(1) 公立幼稚園の歩み

田辺市内に公立幼稚園は4園あり、それぞれの園が地域と共に歩んでいる。

・新庄幼稚園 …	昭和 28 年	牟婁郡新庄村立新庄幼稚園として開園
	昭和 29 年 2 月	新庄村と田辺市との合併により田辺市立新庄幼稚園として開園
	昭和 45 年	5 学級編成
	令和 5 年	開園 71 周年
・中芳養幼稚園 …	昭和 31 年	牟婁郡牟婁町立中芳養幼稚園として 2 学級編成で開園
	昭和 39 年 10 月	牟婁町と田辺市との合併により田辺市立中芳養幼稚園として開園
	令和 5 年	開園 68 周年
・上秋津幼稚園 …	昭和 35 年	牟婁郡牟婁町立上秋津幼稚園として 2 学級編成で開園
	昭和 39 年 10 月	牟婁郡と田辺市との合併により田辺市立上秋津幼稚園として開園
	昭和 48 年	3 学級編成
	令和 5 年	開園 63 周年
・三栖幼稚園 …	昭和 37 年	牟婁郡牟婁町立三栖幼稚園として 2 学級編成で開園
	昭和 39 年 4 月	3 学級編成
	昭和 39 年 2 月	牟婁町と田辺市との合併により、田辺市立三栖幼稚園として開園
	昭和 51 年	4 学級編成
	令和 5 年	開園 61 周年

約 70 年前は、私立幼稚園は園数が少なく、旧市内の中心部に集中していた。その当時は公立幼稚園が地域の幼稚園として幼児教育の役割を担ってきた。

公立幼稚園は、地域の幼稚園として地域の方々の支援を受け、見守られてきた。開園当初は、新庄幼稚園は新庄町名喜里クラブを仮園舎、中芳養幼稚園は、隣の中芳養小学校音楽室を仮園舎、上秋津幼稚園は千光寺の土地を借り、三栖幼稚園は診療所の一部を仮園舎として、地域の支援のもとに、幼児教育をしていた。

○田辺市公立幼稚園による「預かり保育」について

少子化や核家族化など社会の変化や子育て環境の変化に伴い、子育て支援の観点から現在の子育て世代のニーズに応じて、預かり保育を拡充している。

田辺市公立幼稚園の預かり保育の経緯

平成 19 年 5 月 預かり保育開始 週 4 日間
【夕方】 午後 2 時 30 分~午後 4 時 30 分

平成 30 年 4 月 預かり保育の充実
【早朝】 午前 7 時 30 分～午前 8 時 30 分
【夕方】 午後 2 時 30 分～午後 6 時 30 分

半日保育の場合
午前 11 時 30 分～午後 6 時 30 分（弁当持参）

園や農繁期等によって多少の変動はあるが、令和５年度、預かり保育を利用している保護者は、早朝の預かり保育は約 50%、夕方の預かり保育は約 50%～80%が利用している。

（２）意義・役割について

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる重要な教育であり、子供の豊かで健やかな育ちを支え、促す上で十分な意義がある。田辺市においても、教育・保育ニーズの変化や、子供や子育て世代を取りまく環境が変化する中、諸課題に対して公立幼稚園が役割を果たすために、「田辺市学校教育指導の方針と留意点」において、以下５点掲げている。

幼稚園での教育を充実する

・楽しく魅力ある園づくり

幼児期の発達の特性をふまえ、遊びを通して楽しく学べる幼稚園づくりをする。また、子供の生活、発達、学びの連続性を大切にし、小学校以降の学習にもつながる資質・能力を一体的に育み、学びの土台作りの時期として位置付けている。きめ細やかな教育(保育)を行うために、教師自身が専門家としての自覚と資質向上に努める。

・一人一人を大切にし、人権を尊重する心の育成

幼児同士が、共に活動することの目的を共有し、工夫しあい、力を合わせて問題を解決できるような関係性を築かせる。また、集団生活において、言うてはいけないことや、してはいけないことがあることに気づかせ、人との関わりを通して、お互いを大切にする「思いやりの心」を育てる。

・豊かな心の育成

心にしみ入るような感動体験や自然体験を通して、自然に対する畏敬の念や親しみ、探究心を育てるとともに、季節感のある遊びや地域の伝統行事、身近な文化財に接する機会をつくり、興味・関心を育て豊かな心情を培う。また、身近な小動物とのふれあいや飼育、野菜や花の栽培などを通して命を大切にしようとする心を育てる。

さらに、絵本の読み聞かせや、高齢者との交流、地域の人材を活用した楽しい活動等を体験させ、感性の芽生えを大切にし、喜んで話をする気持ちや相手の話を聞こうとする態度を育て、言葉で伝え合いができるようにする。

・基本的な生活習慣の定着と健康な身体の育成

屋外で意欲的に身体を動かして遊べるような環境をつくり、十分に身体を動かす気持ちよさを体験させ、自ら身体を動かそうとする意欲を育てる。また、家庭や地域と協力し、あいさつ・整理整頓・早寝・早起き・自分のことは自分でするなどの基本的な生活習慣を身につけさせる。また、安全に気を付けて行動するなど、自分の体を大切にしようとする気持ちを育てる。

さらに、給食を通して、幼児が食べる喜びや楽しさを味わい、様々な食べ物への興味や関心をもち、進んで食べようとする態度を育てる。

・地域に根ざした園運営体制の確立

家庭・地域・園が一体となった園運営体制をつくるために、学社融合推進協議会委員・保護者・地域住民の意見を園運営に生かすとともに、子供の実態や地域の実情を把握した上で、一人一人の学びや育ちを援助する体制をつくる。また、地域で子供を育てる意識の向上を図るため、小学校をはじめとした地域の関係機関との連携・交流を進める。特に、小学校との連携については、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど幼小の円滑な接続を図る。

さらに、子育てに必要な相談・助言・交流の場を提供し、親と子の育ちの場としての役割を果たすとともに、幼稚園教育の充実を図るため、研修の機会確保に努める。

田辺市の公立幼稚園は、小学校・中学校の義務教育機関と連携した11年間の教育を展開する地域に根ざした教育コミュニティの入口として、幼児期の子供の育ちを支える役割がある。

(3) 公立幼稚園（新庄幼稚園、三栖幼稚園、上秋津幼稚園、中芳養幼稚園）園児数の推移

令和5年5月22日現在

		H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
新 庄	4才	11	12	10	9	10	12	11	6	5	0	0
	5才	26	13	14	10	9	11	12	10	5	5	0
	合計	37	25	24	19	19	23	23	16	10	5	0
三 栖	4才	24	14	12	15	5	10	5	8	5	11	6
	5才	19	26	14	10	15	5	11	6	12	6	16
	合計	43	40	26	25	20	15	16	14	17	17	22
上 秋 津	4才	18	8	11	10	10	8	2	8	5	4	2
	5才	10	19	8	12	10	10	10	6	9	6	4
	合計	28	27	19	22	20	18	12	14	14	10	6
中 芳 養	4才	13	11	8	21	6	13	7	7	2	7	9
	5才	10	17	11	10	20	5	14	6	7	2	7
	合計	23	28	19	31	26	18	21	13	9	9	16
合 計		131	120	88	97	85	74	72	57	50	41	44

他園（所）より、上秋津幼稚園、三栖幼稚園、中芳養幼稚園の5歳児クラスへ途中入園を希望されるご家庭もあり、令和6年度も各園とも、積極的に途中入園を受け入れている。

新庄幼稚園は、令和4年度、5歳児の5人のみで運営を行ってきたが、令和5年度の新入園児が0人となり、現在休園中である。

現在、新庄幼稚園は令和6年度の開園を目標として、毎週水曜日の午前中に、引き続き未就園児事業として園庭開放を園児募集のPR活動を兼ねて行ってきた。毎回10組ほどの親子連れが参加し、広い園庭、遊戯室内で遊んでいる。幼稚園教諭が在駐し、未就園児と関わっている。幼稚園教諭は子供の発達段階に合わせて、遊びの環境を工夫し、月に一回、季節のイベントや工作を計画している。親子で工夫をこらして、制作物を仕上げ、家族のお土産にと持ち帰っている。子供は初めての集団の中で、幼稚園教諭と保護者に見守られながら主体的に新しいことに挑戦をしている。休園中であるが、幼児教育の拠点として、地域に寄与している。

公立幼稚園の入園前の状況調査

（令和5年5月調査）

	在園児数	在家庭	転園	
三栖幼稚園（5歳児）	16	5	11	私立保育所、公立保育所、など
（4歳児）	6	5	1	公立保育所
中芳養幼稚園（5歳児）	7	3	4	公立保育所、社会福祉法人立保育所
（4歳児）	9	2	7	公立保育所
上秋津幼稚園（5歳児）	4	1	3	公立保育所
（4歳児）	2	1	1	公立保育所
	44		27	

学校教育課で、在園児の入園前の状況を調べたところ、在園児44人中、27人が公立保育所や私立保育所、社会福祉法人立保育所から転園してきたことが分かった。

他園から公立幼稚園に転園してきた理由として、以下のことが挙げられる。

- ・行事やイベントに熱心であり、保護者同士の交流も盛んである。
- ・地域住民との交流を数多く行っており、公立幼稚園の地域では、地域で子供を育てる土壌が残っている。
- ・豊かな自然体験や地域農家の協力で行う農業体験ができる。
- ・職場通勤等への利便性がある。

II 公立幼稚園の意義と役割について

1、田辺市公立幼稚園の意義と役割

(1) 幼小連携・接続

- (1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。
- (2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

出典：幼稚園教育要領 第1章総則 第3教育課程の役割と編成等 5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

田辺市公立幼稚園には「幼児教育と小学校教育との連携機関」としての役割がある。公立幼稚園は、園児と小学生の交流がしやすい環境が整っているため、現在、小学校への円滑な接続を目指し、小学校との接続に関して現在、大きく2つの取組を進めている。こうした取組については継続する必要があると考える。

1つ目は、幼小のスムーズな接続による「小1プロブレム」防止の取組である。園児にとって小学校入学は、大きな環境の変化であり、期待や希望を持っている反面、不安を抱く子供も少なくない。そのため幼小相互の授業参観の機会を持ち、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの内容をすり合わせ、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を共有している。コロナ禍において実施を控えることが多かったが、年間を通じて園児の小学校見学や小学校のイベント等に園児を招待し、交流する活動を大切にしている。

2つ目は、各地域に設置されている学社融合推進協議会の一員として園長、小学校長とも参加し、その取組を通じて幼小の繋がりを深めている。学社融合推進協議会の意見を園運営に活かし、改善に向けて園評価の情報を集めている。田辺市公立幼稚園では、前述したとおり、園と小学校との連携を重視しており、繋がりのある教育の実践を目指し、子供たちの交流、職員の交流、情報交流を密に行っている。

(2) 地域に根差した幼稚園（学社融合）

田辺市では、学社融合を教育の柱の一つとして推進しており、「地域交流を推進する機関」として公民館がある。地域コミュニティや文化の拠点である公民館が積極的に幼稚園の教育に関わっている。特に公民館主事による手厚い支援は10年以上の実績がある。地域の方との交流を深めることで、優しさに触れ、成長を喜んでくれる人々と出会い、普段では感じることのできない信頼感や、愛情、感謝の気持ちを持つことができる。

地域との交流における各園の具体的な取組として、

【中芳養幼稚園】

中芳養地区では地域が一体となって夏祭りを行っている。今年度はコロナ禍で、4年ぶりの開催となり盛大に行われていた。小学生、中学生、高校生、保護者の方、地域の方が一同に集い、縁日を楽しんだ。盆踊りをしたり、花火を楽しんだりしていた。かき氷やジュース等を振る舞っていた。まさに園で行っている「お店屋さんごっこ」で学んだことの実践の場となった。

【上秋津幼稚園】

上秋津幼稚園では、接続する上秋津小学校のプールを借りてプール遊びに行った。地域の民生児童委員による読み聞かせの会を年間通して実施している。またお茶会、地域の施設見学、地域の方による絵画教室など、計画をしている。

【三栖幼稚園】

三栖幼稚園では、隣接する中学校の合唱部が園を訪問し、園児に素晴らしい合唱を聞かせる取り組みがあった。幼稚園と公民館が連携して地域の方に呼びかけ、園児と一緒に衣笠山を散策し、交流を図った。

子供を取り巻く社会情勢が、どんどん変化していくなかで、公立幼稚園にとって、地域は「最大の教育資源」であるとともに、今後の公教育の「最後の砦」である。子供の育ちを「幼稚園」という狭い枠組み中で、捉えるのではなく、「学校で学び、家庭で育て、地域で鍛える」の言葉通り、園や家庭、そして地域ぐるみで子供を育てる体制を整えることが必要である。

また、保護者と共に、地域の自然や行事に触れ、それらを体感することで地域を愛する子供を育て、地域社会との連携・融合により教育力を高めてほしい。

(3) 公立幼稚園の現状における課題について

田辺市における子育て世帯のニーズとして、「公立幼稚園での3歳児保育の実施」「核家族化、共働き世帯に対応した子育て支援」「特色ある幼稚園教育の実施」がある。

働く保護者のニーズに応じて、預かり保育を実施しており、保育料は、公立、私立とも同額であるが、バスでの送迎が無い等、私立幼稚園とは差がある。核家族化が進み、子育ての援助が受けづらい世帯にとっては、私立幼稚園や、保育所（園）の3年保育を希望されるご家庭も多い現状がある。

公立幼稚園がある地域には、Uターン、Iターンなど都市部からの転入家庭も存在する。このような保護者の方は、特色ある幼稚園、保育園（所）、認定こども園を選択する傾向が高い。公立幼稚園ならではの特色を打ち出す必要があるのではないかと考える。単発のイベントでなく、幼稚園の看板となるような通年を通した教育カリキュラムの実施が望ましい。話題性がない状態では、園児募集のPRには繋がらない。何か公立幼稚園ならではの、インパクトの強い特色を打ち出す必要があると考えられる。

子供が小さい時期は家庭で育て、小学校へ入学する前の2年間ほど、集団生活を経験させることを希望している保護者もいるはずである。また都会からの移住してこられた保護者は、自然豊かな、のびのびとした環境で子育てをしたいと考えており、公立幼稚園はニーズを満たしている。

公立保育所も園児数が減ってきている。支援の必要な子供は増加しており、少人数で丁寧に支援をして、人との関わりを学ぶ園があってもいい。成長がゆっくりした子供や保護者が過ごす園があればいいのではないかと考える。

これまでは、入学する小学校とのつながりを意識して、地元の幼稚園に通わせたいという保護者が多かったが、幼稚園がある地域において、団地や宅地が増設され、新しい人が転入してきている。ひと昔に比べると、地域のつながりが希薄になってきており、地元の公立幼稚園の良さが伝わりにくくなってきている。

預かり保育については、公立幼稚園で18時30分まで実施している。保護者の中には、周知されていない人も多く見受けられる。

今年度も引き続き、公立幼稚園は、預かり保育を実施していること、預かり保育の時間等を広く周知することが重要である。

Ⅲ 今後の公立幼稚園の意義とあり方

1、田辺市公立幼稚園としての特色ある園運営のあり方

田辺市公立幼稚園の現状課題を鑑み、田辺市公立幼稚園のあり方検討部会で、公立幼稚園として特色ある園運営のあり方について検討をした。検討の結果以下の意見に集約された。

(1) 地域とのつながりを深める園運営(学社融合の推進・幼小連携・非認知能力の育成)

少人数保育の利点を最大限生かし、学力の土台となる非認知能力¹の育成に力を注ぐ。公立幼稚園は、先生、友達との関りも深く、地域の人と関わる機会も多くあり非認知能力を育てるのに適している環境が備わっている。子供たちに地域の自然環境や人材、施設等の教育資源を活用して遊びや体験を通じて非認知能力を育てることが望ましい。そのため公立幼稚園では、今後非認知能力を育むような指導を重要視し、職員研修の充実を図っていただきたい。

(2) 全体的な計画(カリキュラム)に特色を持った園運営

スポーツや音楽、英語などに特化した幼稚園にするのはいいのではないか。また単発のイベント的な取組ではなく、年間を通じたカリキュラムを組んで実施することを希望する。今年度新庄幼稚園で行われた園庭開放で実施し好評であったリトミック(音楽に合わせた表現活動)教室や田辺市のALT(英語指導助手)が行った英語遊びなども特色の一つであるので、検討されたい。

(3) 特別支援教育を柱とした園運営

公立幼稚園は、転園児のリスタートの機会を提供していく機能を強化する。年度途中の転園を考えると家庭の受け皿として途中入園を受け入れている実績があることを鑑み、少人数で丁寧な教育を受ける機会を保障されることが望ましい。また支援員の配置等検討していただきたい。

¹ 非認知能力とは、忍耐力や自制心、自尊感情や自己肯定感、最後までやり抜く力である。幼児教育で認知能力が重視される理由は二つあり、非認知能力は小学校以降の学力のみならず、大人になってからの生活に良い影響を与える。小学校以降の学力において非認知能力を育むことは、認知能力を育むことにつながっている。また非認知能力は、乳幼児期に最も伸びるということも分かっている。

2、今後の公立幼稚園の果たす役割

これまでも、地域の幼児教育機関として、公立幼稚園は一人一人を大切にし、豊かな自然環境を生かした教育を行ってきた。

平成 29 年に改定された幼稚園教育要領に、「幼稚園の運営にあたっては、子育ての支援のために、保護者や地域の人々に機能や施設を開放して、園内体制の整備や関係機関との連携及び協力を配慮しつつ、幼児期の教育に関する相談に応じたり、情報を提供したり、幼児と保護者との登園を受け入れたり、保護者同士の交流の機会を提供したりするなど、地域における幼児期の教育センターとしての役割を果たすよう努めること」と記載されており、今後の公立幼稚園の果たす役割として、前項で示した特色ある園運営を進めるとともに、地域における幼児期の教育センター機能の強化を推進していただきたい。

新潟県長岡市の「保育園等地域子育て支援センター」（“保育士のいる「子育ての駅」”）のような施設もいいのではないかと考える。ここは、保育士や子育てコンシェルジュ（相談員）のいる子育て支援拠点施設である。

隣のみなべ町でも、子育て交流施設「ゆめはぐ館」がある。ここは南部幼稚園あとにできた施設である。1 階は乳幼児が自由に遊べる施設になっており、野外に人口芝のエリアもある。2 階は、一般の方や学生の学習スペースになっていて Wi-Fi も完備で個別のデスクも用意されている。

これらの施設を参考に、休園中の新庄幼稚園の今後は、園の再開を前提に、状況によっては形を変えて（新庄幼稚園、幼児教育センターの併設等）、施設を有効に活用し、地域の拠点として子育て中の保護者への支援や田辺市全般の幼児教育に寄与できる施設運営を検討されたい。

保護者同士の仲間づくりや交流できる場所が必要である。また気軽に幼児教育や子育て、子供の発達について相談できるような場所であればいいと考える。

また、参加する保護者に向けて、何かミニ講座的なこと、例えば食育や絵本の読み聞かせの仕方、年齢別の子供の動きに合った洋服の選び方など、保護者が学べる講座開講の取り組み等も有効ではないか。

3、公立幼稚園における望ましい人数

田辺市乳幼児人口の減少及び、特別支援教育充実の観点から検討をした結果、公立幼稚園の1学級の定員は、20人であるが、最大でも15人までとすることが望ましい。一方で、現在の公立幼稚園の少人数の教育はメリットがたくさん見い出せることができ、各園の運営に関しては財政的な面もあるが、長年地域に愛されてきた幼稚園として、地域の振興に貢献できるよう、最大限の努力を行ってほしい。

そのためには、公立幼稚園として、幼稚園教育を少人数できめ細かく丁寧に行い、誰一人取り残さないように、個性を伸ばす教育を行っていただきたい。

一学年に、複数名の園児がいることが望ましいと考えるが、4才児クラスと5才児クラスの2クラスでの合同保育を行うことや、特別な支援が必要な園児への幼児教育、園児同士の学びを作り出せるよう取組をさらに検討する必要があると考える。

そうした取組とともに、急激な変化ではなく、公立幼稚園の継続について、考慮すべきと考える。

4、今後の公立幼稚園の運営

今後の幼稚園の運営として、具体策として以下のことが考えられる。公立幼稚園の利点や特徴を生かした田辺市の公立幼稚園ならではの園運営をされたい。

(1) 公立幼稚園の立地や、特色を活用して、幼小連携に力を入れる。

幼稚園、小学校が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を互いに確認し、幼小接続において、子供たちが小学校入学後、小学校の雰囲気になかなか馴染めず、不安な気持ちを抱えたまま登校することのないよう「小1プロブレム」防止の取組に力を注いでいただきたい。入学後の生活で戸惑うことなく、順調にスタートできるように取り組みを進めることが望ましい。

円滑な幼小交流が行われるよう、年間交流カリキュラムを作成しておき、見通しと目的をもって交流授業を展開されたい。公立幼稚園は、近隣の小学校と交流しやすい環境である。園児が幼稚園の先生と一緒に小学校に出向き、小学校生活の模擬体験をすることもできるのではないか。

小学校の教職員が、幼稚園に出向き保育を参観したり、ゲストティーチャーとして教育に関わったりすることも考えられる。例えば、小学校の養護教諭が園児に歯磨きのブラッシング指導を行う等の取り組みができないだろうか。相互交流を進めていく中で、園児は小学校の生活や教職員を知ることができ、また、入学前から小学校の教職員が、園児の教育に関わっていることは、保護者にとっても入学後の学校生活に対する安心材料となる効果が期待できる。

ALT（英語指導助手）が公立幼稚園を訪問し、園児に簡単な英会話や、英語ゲームなどを園児と一緒に楽しむ時間を設けている。小学校に入学しても、同じALTから、英語の授業を受けることができるのも魅力である。

小学校入学を意識して、地元の公立幼稚園に4歳児もしくは5歳児から戻ってくるような魅力ある幼児教育を実践され、そのメリットを園児募集にアピールされたい。

(2) 少人数できめ細やかな幼児教育の実践

特別な支援を必要とする子供が、小学校に上がる前段階として公立幼稚園に入園を希望することがある。いきなり小学校に上がるのはハードルが高く、一旦幼稚園での少人数での生活を経験し自己肯定感や気持ちのコントロールなど少人数で丁寧な関わり中で学び、小学校に上がるのも幼稚園の存在意義の一つである。このような子供の受け皿となり、公立幼稚園の存在価値はある。幼稚園教諭も特別支援の研修を積んでおり、実際、他の所ではうまくいかなかったが、公立幼稚園に転園してきて、園児が、周りの友達に認められ、自尊感情を持ち落ち着いて園生活を送っている子供もいる。

今後も、特別な支援を必要とする子供の適切な教育の機会を作り、子どもたちの多様性を尊重し、園児同士と一緒に園生活を楽しめるようにされたい。

（３）自然豊かな園舎・郷土愛を育む地域交流・非認知能力の育成

非認知能力を乳幼児期にしっかり育んでおくことが、その後の認知能力の育成に大きな影響を与えることを広くアピールするとともに、意識的に幼稚園の教育カリキュラムに取り入れていただきたい。幼稚園周辺の自然環境を有効活用して、豊かな自然体験を通じて、子供たちの好奇心や探究心等を大切にした教育を展開されたい。豊かな自然の中で、非認知能力を育てる教育を期待する。

地元の幼稚園として地域社会との関わりを継続されたい。地域の行事に積極的に参加することで、地域の方、先生、異学年の園児、他の園児と交流し、集団としてのコミュニケーションの機会をつくることになる。コミュニケーションの機会を多く持たせることで、地域の人に一人ひとりが大切にされているということを感じ取らせ、園児の自己肯定感を育み、自分も友達も大切にする思いやりの心を醸成されたい。このように地域交流を行うことで、郷土愛が育まれることに繋がる幼児教育をお願いする。

（４）公立幼稚園同士の合同保育の実施

集団生活の経験を充実させる取組として、公立幼稚園合同保育を実施されたい。公立幼稚園へ子供の入園を考えると、少人数できめ細やかな教育を受けられるのはよいが、集団生活を経験させたいと思っている保護者もいる。コミュニケーション力を育むためには、集団が必要と考える。小学校への接続を考えると、同じ学年の子供たちとコミュニケーションをとる力が必要となることから、遠足などの行事を合同実施したり、合同保育を行い、集団で遊んで活動したりする等、少人数では体験できない遊びや機会を確保されたい。合同保育は、指導者にとっても、お互いの教育を振り返るなど、よい研修の機会になるのではないかと考える。

(5) その他

今後のことについて次の2点について検討した。

① 幼稚園の存続について

公立幼稚園は、地域の幼稚園として長い歴史をもち、地域の方に支えられながら存続をしてきた。今後、全国的に進む少子化の影響で、各園でも園児が不在という事態が続くかもしれない。

将来的には、これまでも述べてきたような様々な運営努力を重ね、手を尽くした段階で、一つの選択として公立幼稚園の適正な配置について十分検討される必要がある。

② 休園中の新庄幼稚園の取り扱いについて

当面の間、新入园児の募集を続けながら、園児が不在の期間は、地域の幼児教育の拠点として、未就園児を対象に、未就園児の支援や保護者の子育ての相談などを行っていただきたい。

保護者のニーズ及び新庄幼稚園の園舎の広さを考えると、3年保育実施について再検討することも必要かもしれない。しかし、3年保育実施のためには諸課題があることも認識しており、このようなことから、未就園児を対象に福祉当局と連携し、子育て相談・子育て支援等のサービスを含めて検討していただきたい。

また最近、国が新たに示している「こども誰でも通園制度」のような一時預かりの制度や、未就園児は保護者と一緒にいつでも登園できるような制度等についても積極的に検討していただきたい。

IV おわりに

田辺市公立幼稚園のあり方の検討にあたっては、田辺市の公立幼稚園や教育の現状を踏まえ、成果や課題について確認をしました。子供の健やかな育ちを第一に考えつつ、保護者のニーズやこれまで幼稚園を支えてきた地域にも配慮し、委員それぞれの立場から意見を述べ、検討を重ねてまいりました。

本部会としては、公立幼稚園での生活が子供たちにとって、豊かなものになるよう、また、就学前の子供の教育や健全育成に繋がるよう、この提言が、今後の田辺市の公立幼稚園教育の方向性を定めていくために活用されることを望みます。

「田辺市子ども・子育て会議

田辺市公立幼稚園のあり方検討部会」 委員名簿

委員（部会長）	松浦 和樹	中芳養幼稚園 PTA 会長	田辺市公立幼稚園 PTA 連合会長
特別委員 (ファシリテーター)	森下 順子	和歌山信愛大学教育学部 こども教育学科教授	学識経験者
特別委員	廣畑 順一	新庄愛郷会	新庄愛郷会代表理事
特別委員	鈴木 志都	シオン幼稚園園長	幼稚園を運営する 法人の代表
特別委員	中野 円	子育て推進課 指導主事	子育て推進課 指導主事
特別委員	中本 克彦	上秋津幼稚園園長	田辺市公立幼稚園 研究会会長

子ども子育て部会 田辺市公立幼稚園のあり方検討部会

開催日と検討内容

開催日	検討項目
6月4日（日） （17時00分～）	第1回部会 委嘱状を渡す ☆委員会設置の主旨と今後のスケジュール ☆田辺市就学前人口、エリアの人口推移の把握と在籍園（所） ☆田辺市公立幼稚園の現状について ☆田辺市の目指す就学前教育について ----- □部会次第 □基礎資料冊子 □委嘱状
7月20日（木） （18時00分～）	第2回部会 ☆公立幼稚園の意義と役割について ☆今後の公立幼稚園の意義と在り方について ----- □部会次第 □基礎資料2
10月4日（水） （18時30分～）	第3回検討委員会 ☆今後の公立幼稚園の意義と在り方について （・新庄幼稚園の再開の検討・他の園状況について） ----- □部会次第 □基礎資料3
11月28日（火） （18時00分～）	第4回検討委員会 ☆今後の公立幼稚園の運営について ----- □部会次第 □基礎資料4
1月10日（水） （19時00分～）	第5回検討委員会 ☆提言書の作成の確認 ----- □部会次第 □基礎資料4
1月31日（水） （19時00分～）	田辺市子ども・子育て会議にて、提言書の報告 （松浦委員、森下特別委員）

